

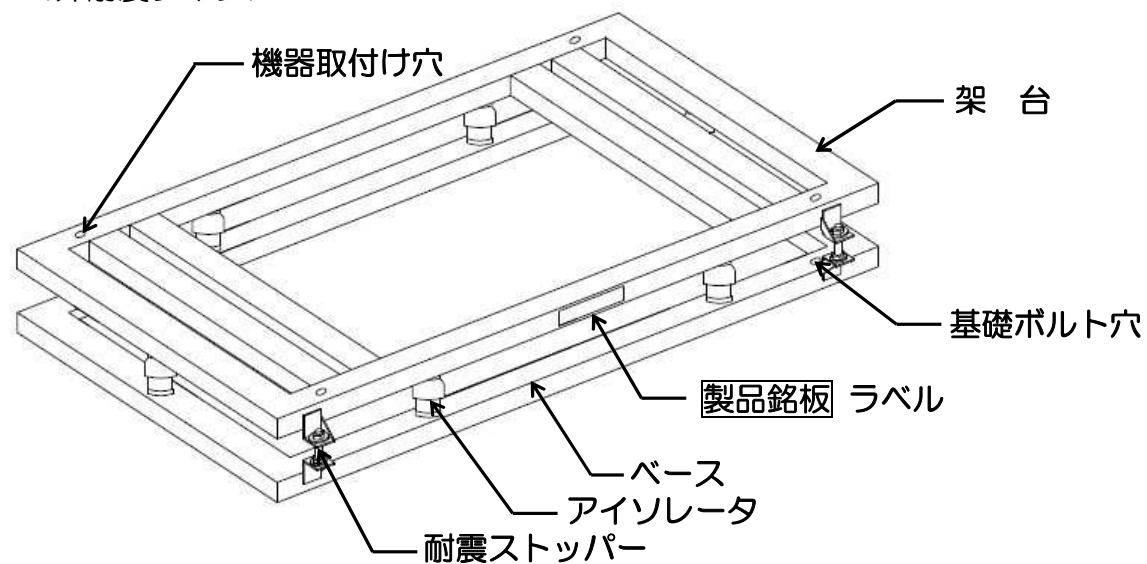
# クランキ 変圧器防振台 取扱説明書

この度は弊社防振台をご採用いただきましてありがとうございます。  
据付工事を行う前に必ずお読みくださり、十分ご理解のうえ正しく施工を行ってくださるようお願い致します。

## 据付の前に

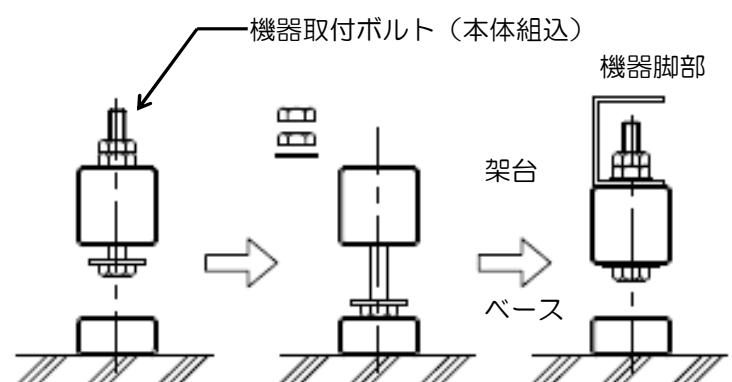
- 製品銘板ラベル中の品番がご注文の品と一致しているかご確認ください。
- 付属品（ボルト・ナット類）をご確認ください。
- 基礎ボルトは付属しておりません。  
お客様にてご用意ください。

<外耐震タイプ>



## 防振台及び機器の据付

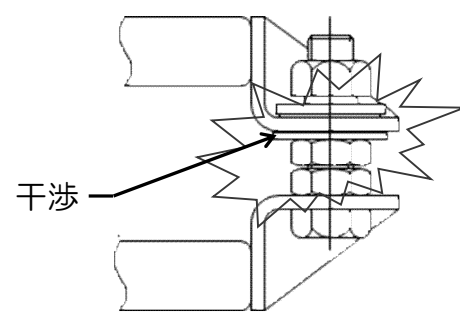
- ↓ 機器を架台上に搭載し付属の取付ボルトで仮止めして下さい。機器の取付ボルトが架台に組込まれている場合は、機器搭載の前に締付ナットを取り外し、ボルトは下部ベースに置いた状態で機器を搭載して下さい。（右図参照）
- ↓ このとき基礎及び防振台の水平をご確認ください。基礎面に凹凸がある場合や水平でない場合は、モルタルで補修するかライナーにて補正してください。（裏面参照）
- ↓ 防振台ベースを基礎ボルトにて強固に固定してください。
- ↓ 機器と架台を機器取付けボルトにて強固に固定してください。



耐震ブラケットと内挿管一体下限ストッパーが  
干渉するほど傾いている場合は調整が必要となります。

調整する際は次のような手順で行って下さい。

緩み止めナットを緩め、架台をジャッキアップし、架台の低い側にアイソレータを移動させて水平になるように調節して下さい。



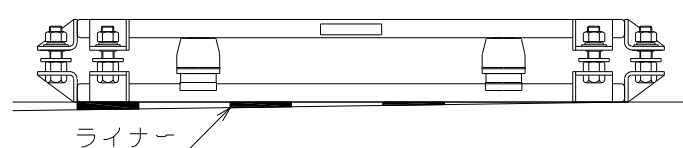
## 基礎施工上の注意事項

基礎はレベルの出た全面基礎とし、ベースと密着するように平滑に施工してください。

やむを得ずはり形基礎となる場合は、ベース部を出来るだけ支持する形状とするか（右図）H鋼等の剛性が高く歪みの出ないものの上に設置してください。

基礎据付面に凹凸がある場合や傾斜が付いている場合は、モルタルにて補修するか、防振台ベースとの間にライナー等を挿入して補正してください。

基礎ボルトは耐震基準に準じて埋設してください。



## 耐震下限ストッパーの位置決め

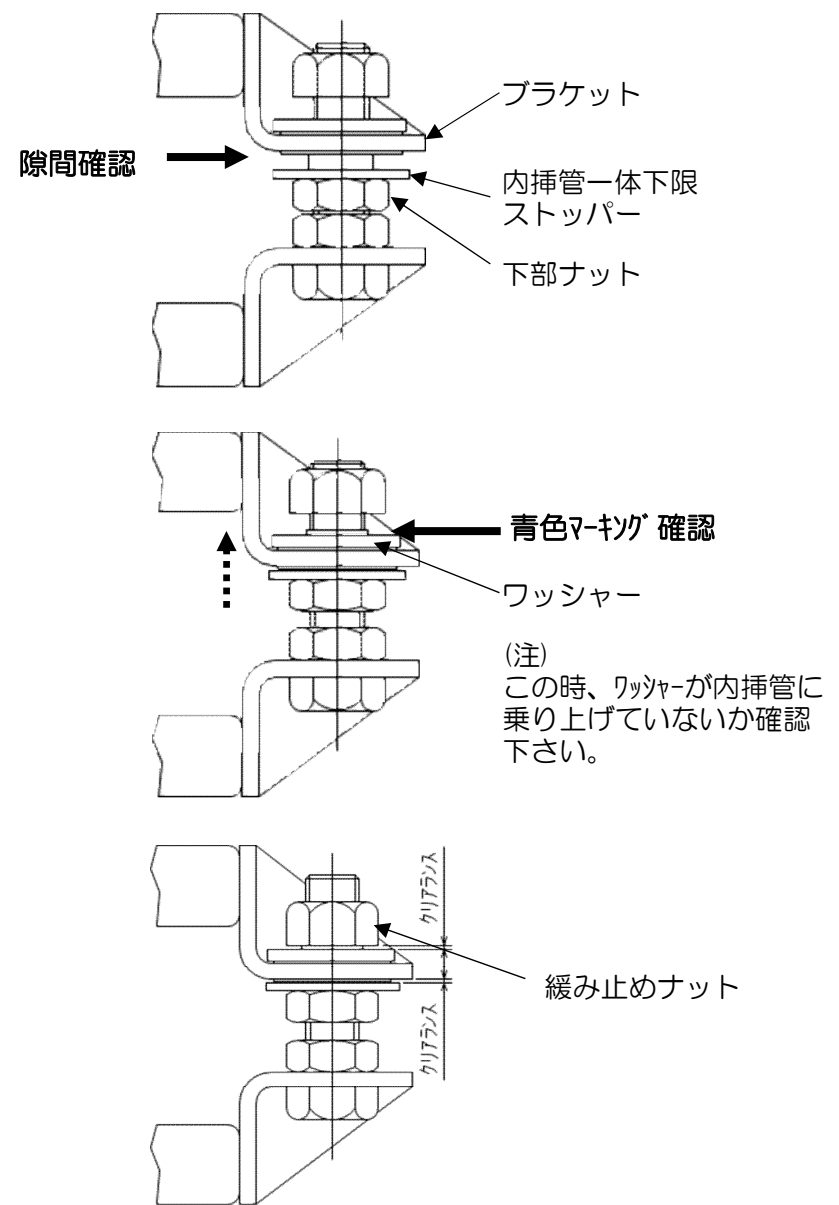
防振台は、適切な施工を行うことによりその性能を最大限発揮することが可能になります。  
アンカーボルト、変圧器本体固定ボルトの固定を実施したあとは、下限ストッパーを以下の要領で固定下さい。

隙間ゲージ等の特殊工具や、特別なスキルは何ら必要ありません。  
簡単作業で適切なクリアランスが確保できる構造ですから、地震時の過大な揺れを防止するために以下の作業は必ず実施下さい。

### <手順>

- ①:下限ストッパーとブラケット間に隙間があることを確認下さい。もし、ブラケットと下限ストッパーが干渉している場合は下部ナットを回して下方に移動させてください。
- ②:下部ナットを回して、下限ストッパーを上に移動させてください。ワッシャーの上面から内挿管の青色マーキングが確認出来たら、その位置が適正な下限ストッパーの位置になります。
- ③:そこで上部の緩み止めナットを締めこんで、下部ナットとダブルナットの要領で固定下さい。内挿管を介して締めこむことにより、強固に下限ストッパーが固定されます。

以上の作業で自動的にストッパー位置が適切なクリアランスが保持できる位置で固定され、位置決め作業は完了です。



下限ストッパーは地震時の過大な揺れを抑えるための物です。輸送時、据付時に機器の荷重を支持するような使い方はしないでください。

### ご注意

#### ※ 防振台に機器を搭載したまま運搬しないでください。

- ・揺れ等により機器又は、防振台が破損する可能性があります。
- ・下限ストッパーにて固定したままの運搬及び、据付もしないでください。  
耐震ストッパーの破損の原因になります。

- ※ 地震時の変圧器本体の変位量増幅や、防振性能への影響の可能性があるため、防振ゴムとの併用は推奨致しません。
- ※ 廃棄する場合は本体ゴム部：産業廃棄物、その他：リサイクル鉄材又はリサイクル樹脂材としてください。
- ※ 作業時の安全確保には十分な配慮をお願い致します。
- ※ 予告無く本体の構造等を一部変更することがあります。



倉敷化工株式会社 産業機器事業部

<http://www.kuraka.co.jp/sanki/>

〒712-8555 岡山県倉敷市連島町矢柄四の町4630 TEL(086)465-1715(代)